

患者の皆様へ

2021年8月27日

呼吸器内科・呼吸器外科・腫瘍内科

現在、呼吸器内科・呼吸器外科・腫瘍内科では、「EGFR 変異陽性肺癌患者におけるオシメルチニブ（タグリッソ）を内服後に間質性肺炎（ILD）を発症した患者さんの後治療の実態と、オシメルチニブの再投与の有効性と安全性」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究ではオシメルチニブによる治療を受けた患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「オシメルチニブ(タグリッソ)による肺障害後の治療の実態と安全性・有効性を調査する研究」
2. 研究の意義・目的 オシメルチニブ(タグリッソ)による治療で間質性肺炎を発症した患者さんのその後の治療や経過の特徴、その後の抗癌薬の安全性や治療効果といった情報を検討することを目的としています。
3. 参照するカルテの対象期間 2018年8月1日から2020年9月30日

4. 研究の方法

EGFR 変異陽性非小細胞肺癌と診断を受け、オシメルチニブによる治療を受けた方を対象としています。性別、年齢、病期、全身状態、喫煙歴、肺のCT画像所見、治療経過などを、カルテから取り出し、集計、検討を行います。

本研究は国内の多数の施設で行われる共同研究であり、研究全体の代表者は、静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科 西岡直哉 です。

5. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化して管理し外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学講座の鍵のかかる棚で保管します。また、データは、本研究のデータセンターである 静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科に匿名化された上で送付され、保存・解析が実施されます。

6. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

研究実施機関：千葉大学医学部附属病院

本件のお問合せ先：千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科 医師 安部光洋
043(222)7171 内線 7967

研究代表機関：静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科

研究代表者：西岡直哉